

三重大学『科学的地域環境人材』資格取得のための学習要項(S)

〇まえがき

『科学的地域環境人材』育成事業は、「環境を科学的に判断・評価し新しい環境価値を創造しつつ、地域で活躍できる人材」を育成することを目的として環境教育を行い、その学習結果が目標基準を満たしたことを証するために、三重大学「国際環境教育研究センター」(以下センター)が『科学的地域環境人材』資格(以下「当該資格」という)を認定・発行する事業である。

1. 科学的地域環境人材 2つの資格

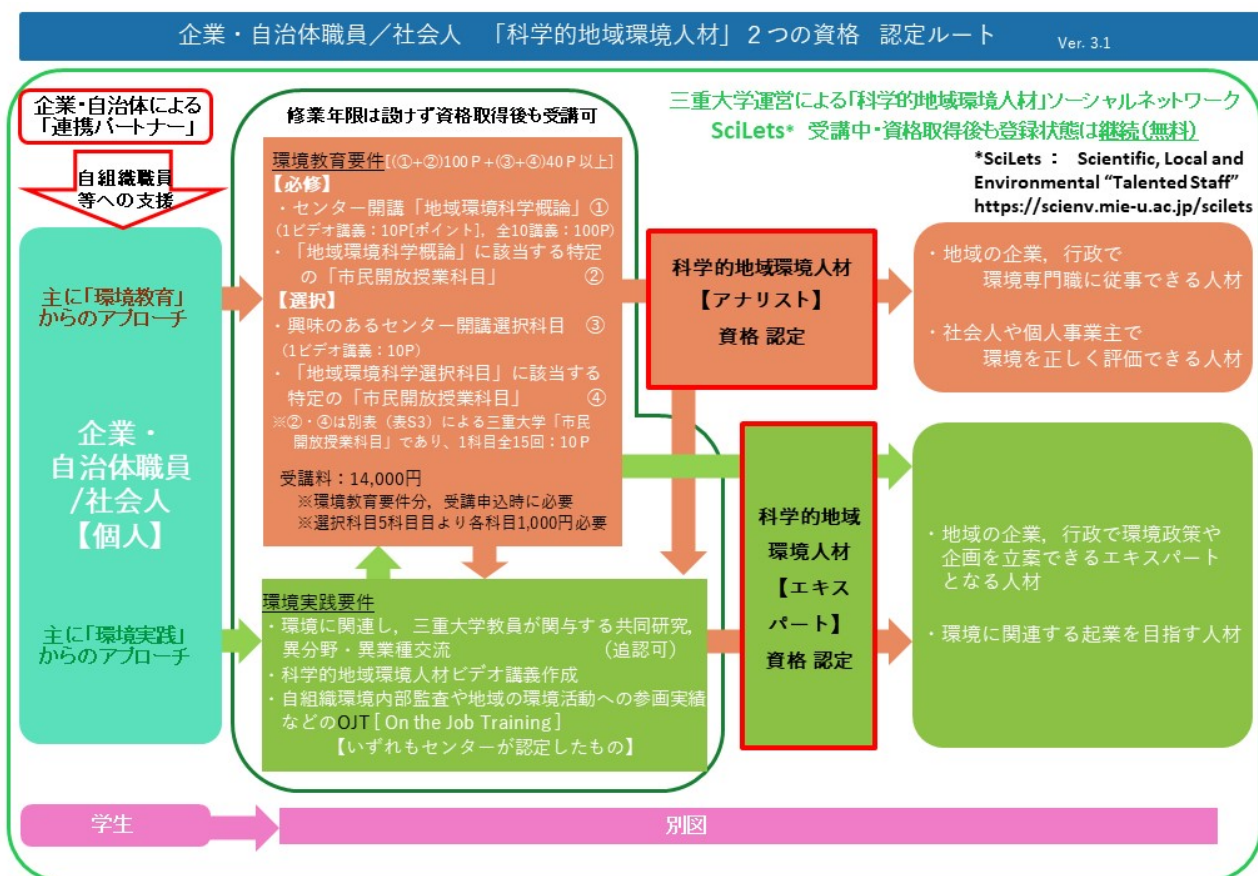


図 S 1 『科学的地域環境人材』 2つの資格

三重大学『科学的地域環境人材』資格には、図 S 1 のように「アナリスト」と「エキスパート」の 2つの資格がある。

「アナリスト」資格は、環境教育要件を満たすことにより取得することができる。

「エキスパート」資格は、環境教育要件と環境実践要件の両方を満たすこと(満たす順序には関わらない)により取得することができる、「アナリスト」資格を包含する。

従って、当初「アナリスト」資格を目指していた受講者がある取得後、環境実践要件を満たすことにより「エキスパート」資格を取得することができる、その後は「エキスパート」と称する。

また「アナリスト」資格を目指していた受講者がある途中で環境実践要件を満たし、さらに環境教育要件を満たすことにより「エキスパート」資格を取得することができる。

あるいは、当初から環境実践要件に主眼を置いて活動しこれを満たしたのち、環境教育要件を満たした受講者はその時点で「エキスパート」資格を取得することができる。

2. 資格の保持

一度「アナリスト」あるいは「エキスパート」資格を取得した受講者は、その後資格取得要件が変わっても、次の資格保持要件を満たす限り、当該資格はそのまま保持される。

『資格保持要件』：資格取得後は、サイレッツ（ここでは SciLets ポータルサイトを指す）に加入を継続し（特に届け出不要）、その情報により、世界情勢や国内外法令などの状況に合わせ、当学習システムなどを利用して知識をアップデートすること。

その結果、一度取得した「アナリスト」あるいは「エキスパート」資格は、サイレッツの登録が継続されている限り有効である。

なお、資格取得以前に、個人が資格取得のために積み増した学習結果であるポイント数は、上記『資格保持要件』と同等な状況において保持される。

3. 学期、環境教育要件および環境実践要件の修業期間

当該資格は、本事業に加入時点（申込時点）の学期（各年度前期：4月1日～9月30日、および後期：10月1日～翌年3月31日）の学習要項の資格取得要件が満たされることにより取得される。なお、取得要件が改訂されるのは、各学期の開始時点である。

当該資格の環境教育要件および環境実践要件の修業期間は特に設けない。

本事業に加入した時点（申込時点）の学期の資格取得要件を満たした後、資格取得申請をもって資格を取得することができる。

三重大学（正規課程）及び大学院に入学した場合、在学期間の資格取得要件は「三重大学学生用」学習要項(G)によるが、その後さらに三重大学を卒業または大学院を修了した後の資格取得要件は、卒業または修了の時点から本事業に加入した時点（社会人時）の「社会人用」学習要項(S)の資格取得要件が適用されるものとし、卒業・修了後に資格取得の要件を積み増して資格取得を目指すためには、それまでに修得した環境教育要件および環境実践要件の達成状況を合算することができる。ただし、三重大学に入学以前に社会人として支払った費用については返金しない。

4. 環境教育要件

4.1 「地域環境科学」科目群と各科目のポイント

環境教育要件は、センター開講「地域環境科学」科目群の学習により、以下に記載する必要ポイント数を取得することにより満たされる。

受講者が当該資格（特に指定しない限り、「アナリスト」と「エキスパート」資格いずれをも指すものとする）を取得しようとする場合、センター開講「地域環境科学」科目群のうち、表S1に示す地域環境科学必修科目100ポイント（1.5時間の10科目のビデオ講義をまとめて「地域環境科学概論」と呼ぶ）と、表S2に示す地域環境科学選択科目を40ポイント以上、合計140ポイント以上を取得する必要がある。

なお各科目とも、1科目は1.5時間のビデオ講義を標準とし、その修得により受講者にはそれぞれ10ポイントが付与される。

選択科目の受講には、あらかじめ申請が必要である。ただし、5科目目以降の選択科目については別途費用が発生する。

4.2 地域環境科学関連 市民開放授業科目

表 S 3 に指定される特定の教養教育科目または専門教育科目（大学院の科目を含む三重大学の学生のための講義）は、地域環境科学関連「市民開放授業科目」として登録されているので、その修得により、表 S 1 および表 S 2 で規定する「地域環境科学」科目群の特定科目と同等の科目を修得したものと認め、表 S 3 により規定される「地域環境科学」のポイント（特に定めない限り 1 科目 10 ポイントとする）を取得することができる。

5. 環境実践要件

環境政策・企画の立案ができる『科学的地域環境人材』育成のために、実践的教育「On the Job Training」を重視し、下記のいずれかの環境実践を「エキスパート」資格の取得要件とし、センターが認定する。

(1) 環境に関連する共同研究、異分野・異業種交流の実践

三重大学教員が関与する、環境に関連する共同研究、異分野・異業種交流に携わり、そのテーマが当該教員の申告とセンターの認定により「三重大学の環境研究」に登録された場合（研究・交流実施の時期が過去のものも含む）。

(2) 『科学的地域環境人材』事業におけるビデオ講義の作成

受講者が組織において、あるいは個人的に環境実践を行っている場合、本事業の関連する「地域環境科学小委員会」の承認の下に、『科学的地域環境人材』事業におけるビデオ講義を作成した場合。

(3) 連携パートナー組織における ISO14001 等環境管理内部監査員活動

受講者が所属する組織（連携パートナーであることが必要）の ISO14001 等環境管理内部監査員活動に 2 年以上携わり、組織がその事実の下に推薦し、センターが認定した場合。

表 S 1 地域環境科学必修科目とポイント（10 の基礎分野の概論：計 100P[ポイント]）

分野	講義名	ポイント数	
01	環境問題・環境評価法	環境問題・環境評価法 概論	10ポイント
02	エネルギー技術	エネルギー技術 概論	10ポイント
03	環境配慮技術	環境配慮技術 概論	10ポイント
04	環境管理・ESD・SDGs	環境管理・教育啓発概論 概論	10ポイント
05	環境関連法・行政	環境関連法・行政 概論	10ポイント
06	大気・水と食の健康リスク	大気・水と食の健康リスク 概論	10ポイント
07	自然環境保護・生物多様性	自然環境保護・生物多様性 概論	10ポイント
08	気候変動問題	気候変動問題 概論	10ポイント
09	コミュニティ&インバウンド	コミュニティ&インバウンド 概論	10ポイント
10	環境経済・経営,ESG	環境経済・経営 概論	10ポイント

表 S 2 地域環境科学選択科目とポイント

主関連分野		講義名	ポイント数
01	環境問題・ 環境評価法	ライフサイクルアセスメントの 概要と事例	10ポイント
02	エネルギー技術	地域再生とスマートエネルギー	10ポイント
		再生可能エネルギー（風力）と	10ポイント
03	環境配慮技術	環境を守るために必要な分析	10ポイント
		環境化学における計測技術	10ポイント
		環境／エネルギー問題と水素社会	10ポイント
		自然に学ぶ環境負荷低減化技術	10ポイント
		環境負荷低減に役立つテフロン材料	10ポイント
04	環境管理・ESD・SDGs	環境マネジメントシステム基礎	10ポイント
06	大気・水と食の健康リスク	生活環境汚染と健康管理	10ポイント
		大気汚染と水質汚濁の健康リスク	10ポイント
07	自然環境保護・生物多様性	沿岸域の環境再生と生物多様性	10ポイント
		生物多様性と外来生物	10ポイント
		生きものと共存する田んぼと 地域づくり政策	10ポイント
		海の生物多様性	10ポイント
08	気候変動問題	IPCC第5次評価報告書第2作業部会 （主に影響・適応）報告書を読み解く	10ポイント
		温室効果と地球の気候変動の正しい理解	10ポイント

表 S 3 地域環境科学関連 市民開放授業科目とポイント

	学部等	授業科目	担当教員	開講 (曜日, 時限)	「地域環境科学」科目群における ポイント付与特定科目		ポイント数
					分野	講義名	
前 期	生物資源学部	将来気候予測論	立花 義裕 他	金7・8限	08	気候変動問題概論	10ポイント
	教養教育機構	環境科学 (ISO環境管理学)	立石 一希	月1・2限	04	環境マネジメントシステム基礎	10ポイント